

# くすの木タイム学習指導案

第3学年

**I 単元** オープン！ときめき竹細工工房  
-竹細工の魅力をつたえる竹細工博物館をつくろう-

## II 考察

### 1 教材観

(1) 育成を目指す資質・能力の三つの柱

#### ①知識及び技能

竹細工やその文化、竹細工を守り広めようとする人々の特徴・よさ、それらを得るのに必要な技能

#### ②思考力、判断力、表現力等

竹細工やその文化、竹細工を守り広めようとする人々の特徴・よさ等を関連付けながら課題を見だし、解決方法を導き実践する力

#### ③学びに向かう力、人間性等

竹細工や竹細工を守り広めようとする人々と関わることへの意欲や自信を高めながら、自ら探究する態度

### (2) 学習内容

- ・探究課題 ものの価値について、多面的に見ることができる竹細工
- ・その具体 人 : 竹細工を守り広めようとする人々とその思い  
もの: 「見た目」「使いやすさ」のある竹細工  
こと: 手作りのものに込められた思い、空間を温かくする和の雰囲気

### (3) 単元の価値

大単元「オープン！ときめき竹細工工房」は、子どもたちが自ら竹細工を作り、竹細工を守り広めようとする人々と関わる中で、竹細工の魅力に気づき、その魅力を発信する学習である。その3番目の小単元「竹細工の魅力を伝える竹細工博物館をつくろう」は、これまで得た竹細工の特徴・よさを基にした魅力を発信する学習である。その価値は以下のとおりである。

人は自己の価値観を基に、ものを選択し、購入したり、作ったりしている。しかし、大量生産・大量消費経済社会である現代では、ものを選択することが難しくなっている。全国の産地の食品が売られているスーパーや24時間営業のコンビニ、インターネット通販により、たくさんの品数の中から、ものを選択することになるからである。そのような大量にものがあふれる中で、「値段」「値段よりも安全性」等といった自己の価値観を基にものを選択することやものの外見や性能だけでなく、ものに込められた思い等にまで自己の価値観を広げていくことは、自己の生き方を考えることにもつながる。このことから、ものに対して多様な角度から見て、ものの価値を考え、その魅力を知ることは大切である。

竹細工は編み方や竹の皮と身の組合せ方、竹ひごの間隔等を工夫することで、見た目や質感、しなやかさや丈夫さ等を変化させることができる。そのため、自分の作りたいものを好きな見た目や質感等で作ることができ、愛着を感じながらもの作りに没頭することにつながる。また、そこで得た特徴・よさのみでなく作り手等の思いがこもっていることや、そこから生じる温かい雰囲気等の多様な角度から、ものの価値を考える等の探究ができる学習材である。

これまでに子どもたちは校内の人に向けて竹細工を作り、竹細工がもつ温かみや見た目のよさ、使いやすさ等の竹細工の魅力に気づき、竹細工に対して愛着をもち始めている。このような子どもたちにとって、認知度調査から分かる竹細工の認知度の低さは、竹細工の魅力を知らない人が

多いという分析につながり、何とかして地域の人に自分たちが気に入っている竹細工の魅力を伝えたいという思いを高めるものである。そのような竹細工にあまり興味のない若い人へ竹細工の魅力を伝える竹細工博物館の企画・運営について追究することは、ものには作る人等の思いが含まれるという、ものの内面を考えることができる。このことは、多様な角度からものの価値を考えることについての知識及び技能を得たり新たにしたりすることとなる。そして、竹細工博物館をつくる中で直面する1人では解決が難しい問題は、他者と協働して取り組む必要性を生む。さらに他者とともに失敗から改善策を考えるとといった学びを段階的に高めていく過程により、一つ一つの成果を他者と分かち合い、取組の自信をもつことにつながる。

これらの探究を通して子どもたちは、ものの価値について多面的に見つめ直すことの大切さについての概念的な理解をし、自己の生き方を見つめ、広げていく。

#### (4) 今後の学習

これまでの追究を生かして竹細工博物館を開き、地域の人々に竹細工とその魅力を発信してきたこの学習は、次の小単元「これまでの取組を振り返ろう」において、1年間の取組を振り返り、地域への貢献の成果と自己の成長を実感する学習へと発展していく。

#### 2 児童の実態及び指導方針

子どもたちは本単元の2番目の小単元「学校の人に竹細工の魅力がわかるものを作ろう」において、校内にいる児童や職人に使ってもらえる竹細工に向けて、班の友達や竹細工職人とともに編み方や竹の皮や身、竹ひごの間隔等を改善しながら竹細工を作製する学習をしてきた。この学習の中で明らかになった子どもたちの実態及び本単元を進めるにあたっての指導方針は、次のとおりである。

- ① 自分たちで実際に竹細工を作製することによって竹細工の外面的な魅力を得てきた。このような子どもたちが竹細工に関する竹細工に込められた思いや竹細工を見て感じられる温かみ等の内面的な魅力に気付けるように、自分たちが作る竹細工博物館の感想をもらう機会を複数回設定する。
- ② 校内の人に向けた竹細工作りを通して自分たちが作りたいと考えている竹細工の魅力と自分たちの作製した竹細工の魅力を比較し、魅力を根拠に改善策を導けるようになってきた。このような子どもたちが、竹細工博物館の企画・運営方法について、竹細工の魅力と来館者の感想を関連付けながら改善策を導けるように、自他のもつ情報を可視化し整理するツールの用意をする。
- ③ 校内に向けた竹細工作りに関わる課題に対して、評価してもらう相手や班の中での役割等を自己決定・集団決定し、課題解決への意欲や自信をもてるようになってきている。このような子どもたちが、竹細工博物館に関わる課題の解決への意欲と自信をもてるように、自分たちが担当するコーナーの内容や展示の仕方等の改善策を自己決定・集団決定する機会を繰り返し設定する。

### Ⅲ 目標及び評価規準

#### Ⅳ 指導計画 ※Ⅲ・Ⅳについては、指導と評価の計画参照

#### Ⅴ 本時の学習（17／30時間目）

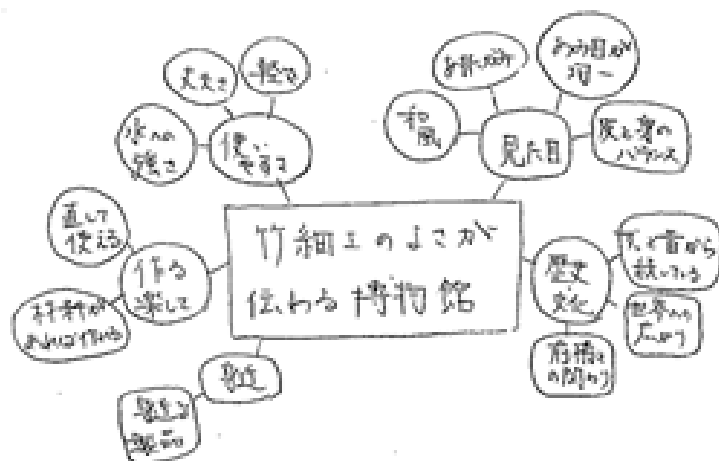
- 1 ねらい 校内博物館の来館者からの感想にある魅力が、若い人に伝える竹細工の魅力として相応しいかについて話し合うことを通して、竹細工に込められた思い等の新たな竹細工の特徴に価値を見いだす。
- 2 準備 課題を解決した状態の具体図 校内博物館の感想一覧
- 3 展開

学習活動と子どもの意識

指導上の留意点

<p>1 本時のめあてをつかむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・感想にも伝えたい竹細工の魅力が書かれていたし博物館で魅力が伝えられたよ。物を大切にしてもらえるようにもっと魅力を伝えたいな。</li> <li>・校外での竹細工博物館に向けて、自分たちの博物館をもっと魅力的にできるようにみんなで話し合いたいな。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○課題の解決状況を把握できるように、来館者の感想を読んで感じたことを問いかける。</li> <li>○自分たちの博物館をよりよくするため方法を学級全体で話し合うという見直しをもてるように、前時の振り返りを基に本時に取り組むことを問いかける。(イ)</li> </ul>
<p>めあて「感想を基に、ものを大切にしたいという気持ちをもってもらえる博物館にするために取り入れたい魅力を見付けよう」</p> <hr/> <p>「見方・考え方」を働かせて協働的に学ぶ姿</p> <p>竹細工の魅力を多様な角度から俯瞰してみて、自分以外の人の立場に立って考えようとしている。</p>	
<p>2 伝えたい竹細工の魅力と来館者の感想とを比べ整理する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・竹細工が欲しい理由に、ぼくたちの伝えなかった竹細工の魅力の他に「思いが伝わってくる」「手作りがいい」もあるよ。これも、竹細工の魅力なのかな</li> </ul> <p>3 感想にある魅力が取り入れる竹細工の魅力として相応しいかについて話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「手作りがいい」と感想にあるけど、ぼくたちの博物館に入れた方がいいのかな。ぼくは一生懸命さが伝わるからいい気がする。みんなで話し合いたいな。</li> <li>・「手作りをいれる」の根拠にある、「手作りのプレゼントをもらおうと嬉しいから、手作りの竹細工を紹介した方がいい」も分かるな。若い人に、ものの大切さが伝えられそうだね。</li> <li>・他にもぼくたちが心を込めて作ってきたことを紹介することで若い人にも竹細工が大切なものだと思ってもらえそうだよ。</li> <li>・竹細工は、目に見えない部分にも魅力があるのだな。「手作り」もぼくたちの博物館に取り入れるべきだと思うよ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○自分たちが伝えたい竹細工の魅力と感想にある来館者が感じた魅力にズレを感じ、新たな竹細工の見方に気付けるように、課題を解決した状態の具体図と校内博物館の感想一覧を提示し、色分けしながら整理する。(イ)</li> <li>○感想にある魅力が取り入れる竹細工の魅力として相応しいかについて考える必要感をもてるように、整理された校内博物館の感想一覧を見て気付いたことを問いかける。(イ)</li> <li>○出された考えに様々な角度から根拠が含まれていることに気付けるように、根拠を整理して板書をする。</li> <li>○竹細工の外見以外の内面的な魅力に気付けるように、自分たちがこれまでに作ってきた作品への思いを問いかける。</li> </ul> <div data-bbox="837 1512 1417 1697" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p style="text-align: center;">評価項目</p> <p style="text-align: center;">竹細工の魅力が伝わった状態の具体図や「来館者の感想」等、複数の視点から竹細工の魅力を考えている。&lt;発言②&gt;</p> </div>
<p>4 本時の学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・たくさんの理由を基に考えたから納得できたな。次は、自分たちのコーナーに「心がこもっていること」を取り入れる方法を考えたいな。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○今後の追究への意欲と自信を高められるように、博物館をよりよくする方法を話し合いことやよりよくする方法を得られた自分や友達の頑張りを称賛する。</li> </ul>

地域の若い人に



と書いてある

<課題を解決した状態の具体図>

指導と評価の計画（全30時間）

目標	竹細工の魅力を発信する竹細工博物館を作ることを通して、竹細工やそれにかかわる人々の特徴・よさ同士を関連付けながら、課題を見だし、解決方法を導き、竹細工を作るときに込められた思いやものの価値について多面的に見つめ直すことの大切さについての概念的な理解をし、ものの選び方や使い方を問い直す。			
評価 規準	(①知識・技能)竹細工やそれにかかわる人々の特徴・よさを理解している。 竹細工やそれにかかわる人々の特徴・よさの比較・分類をする思考ツールを使うことができたり、他者の考えを把握しその考えを解決方法に生かしている。 (②思考力・判断力・表現力等)竹細工やそれにかかわる人々についての課題を設定し、それらについて調べ、調べたことや他者の発言等を根拠として解決方法を導き、実践している。 (③主体的に学習に取り組む態度)竹細工やそれにかかわる人々への関心を高め、取組への思いや自信をもち、生活を豊かにする物への自己の考え方の変化を感じている。			
過程	時間	学習活動	指導上の留意点	評価項目<評価方法(観点)>
であ う	3  1	○学校外の人へ、竹細工の認知度調査を行い、調査結果を整理する。  ○竹細工職人の方の話や認知度調査を通して気付いたことや疑問を話し合い、課題をつかむ。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content;">課題：地域の若い人に竹細工の魅力を伝え、ものを大切にしたいという気持ちをもってもらうにはどうしたらよいだろうか</div>	○竹細工の魅力を発信する目的と相手を明確にできるように、認知度調査の結果を整理し、「なぜ認知度がひくいのだろうか」の視点を提示する。  ○竹細工の魅力を発信することに対して主体的に取り組むことができるように「自分たちの取組」や「竹細工職人の方の話」、「調査結果」を整理するマトリクスの用意をする。(ア)	◇認知度調査の結果を整理し、竹細工の認知度が低い理由を記述したり、発言したりしている。 <発言・プリント②>  ◇今までの学習を基に、市民の方に竹細工の特徴・よさを伝えたいという思いを記述している。 <発言・プリント③>
か か わ る	1  1  2  7  課外 2  8  3  課外	○竹細工の魅力を発信したあとのゴールイメージについて話し合い、計画を立てる。  ○竹細工の魅力を発信方法を、図書資料やWebサイトで調べる。  ○竹細工の魅力を発信方法を話し合う。  ○伝えたい内容が似ている子ども同士で班を組み、発表資料にまとめる内容を分担して詳しく調べ、班ごとに試しの校内博物館づくりに向けて準備を行う。  ○試しの校内博物館を開き、来館者から感想をもらう。  ○試しの校内博物館で得た感想を基に、博物館をよりよくするための方法を話し合う。(本時2/2)  ○話し合ったよりよい博物館にするための方法を基に、校外博物館作りに向けて、班ごとに準備をする。  ○施設の方と打合せをし、自分たちの校外博物館を再度見直す。  ○校外博物館を開き、来館者から感想をもらう。	○自分たちの発信方法で若い人に竹細工の魅力を伝えられた状態を具体的に想定できるように、竹細工の魅力を整理する「評価する人」と「評価してもらう方法」の視点を提示する。  ○発信方法の特徴に気付けるように、発信方法に関する図書資料コーナーやWebサイトリストを用意する。  ○発信方法と発信内容の組み合わせの整合がとれるように、課題を解決した状態の具体図と発信方法の特徴を整理するマトリクスの用意をする。(イ)  ○発表内容やそれに適した方法を決められるように、「竹細工の見た目のよさ」、「竹細工の使いやすさ」、「竹細工の歴史・文化」、「身近な竹製品」、「竹細工が抱える問題」等の視点や実際の博物館の展示の様子を示した写真を用意する。  ○自分たちが伝えたい竹細工の魅力と来館者が感じた竹細工の魅力のズレから主体的に改善策を考えられようように、課題を解決した状態の具体図と校内博物館の感想一覧を提示する(イ)  ○話し合ったよりよい博物館にするための方法を基に、班ごとに準備が進められるように、試しの博物館の写真や話し合いの内容が記入された掲示物を提示する。  ○目的や相手を意識して、竹細工の魅力を伝えられるように、課題を解決した状態の具体図を用意する。	◇竹細工の特徴・よさを複数、記述したり発言したりしている。 <ノート・発言①>  ◇竹細工の特徴・よさの発信方法を記述している。 <学習プリント①>  ◇「竹細工のよさが分かる」の具体図をもとに、発信方法について発言したり、記述したりしている。 <学習プリント・発言②>  ◇発表内容に適した絵や図、写真、グラフモデルを用いて発表資料を作っている。 <制作物①>  ◇「竹細工のよさが伝わった状態の具体図」、「来館者の感想」等、複数の視点から竹細工の魅力を考えている。 <発言②>  ◇発表内容に適した絵や図、写真、グラフモデルを用いて発表資料を作っている。 <制作物①>  ◇竹細工の魅力を基にして、博物館作りへ向けた資料作りに取り組んでいる。 <学習プリント・発言・行動①>
・ま い と か め す	2	○「竹細工博物館」の来館者の感想を集計し、「竹細工博物館」の成果を話し合う。	○来館者の感想を基に課題の解決状況を評価できるように、課題を解決した状態の具体図と感想を集計するシートを用意する。	◇来館者の感想を基に、竹細工を作るときに込められた思いやものの価値について多面的に見つめ直すことの大切さについてを記述している。 <学習プリント③>